

英語の言語変化と社会相

竹中裕貴

0. はじめに

本稿では、英語という言語を取り巻く社会相を反映した新しい商品名と、それに関連する派生表現に焦点を当て、言語的变化というものが、言語的なメカニズムと、その変化を誘導する文化の体系であることを改めて示していきたい。

まず、アフリカで流行しているエボラ出血熱に関連した新語を追う。2014年9月現在、猛威をふるうこの深刻な病が原因で脚光を浴びることとなった英語商品名と、病名である Ebola そのものが品詞転換した用例を取り上げ、そのそれぞれの意味と背景を分析する。

次に、2014年9月に最新版が発売されてメディアを賑わせた iPhone について、竹中 (2010, 2012) で示した *be X-ed out* という構文においてのみ見られる臨時語としての用法を検討し、再度、この構文の生産性とその表す意味、そして今後の調査への課題を提示したい。

1. Ebola と新語

エボラ出血熱の感染者が西アフリカで増加し、現在大きな問題となりつつある。どのような病気であるかは周知の通りであるが、念のため、アメリカ合衆国の CDC (Centers for Disease Control and Prevention) から引用すると、“Ebola” という奇病は、患者の血液や、その他の体液などに直接接触することにより感染するウイルス性の感染症であることが確認できる。

- (1) Ebola is a rare and deadly disease. The disease is caused by infection with one of the ebolaviruses (Ebola, Sudan, Bundibugyo, or Tai Forest virus). It is spread by direct contact (through broken skin or mucous membranes) with a sick person's blood or body fluids (urine, saliva, feces, vomit, and semen). It is also spread by contact with objects (such as needles) that have been contaminated with infected body fluids or infected animals. (<http://wwwnc.cdc.gov/travel/notices/warning/ebola-guinea>)

“rare” とされているこの病気は、しかしながら現在大流行の兆しがあり、取り返しの付かない事態を警告する声も多く聞かれる。実際に、過去に類を見ない規模の、実に 2 万人にも及ぶ感染を WHO (World Health Organization) が警告しており、以下の (2) のような報道も見られる。

- (2) The World Health Organization says the deadly Ebola outbreak in West Africa could infect more than 20,000 people before it is brought under control.

(<http://www.bbc.com/news/world-africa-28971710>)

このような社会的に大きな影響をもつ事件が起こることは、それをきっかけとして、新たに知っておくべき英語表現に光が当たったり、さらには、まったく新しい英語表現が生まれる環境を生み出すことにつながる。以下では、上述の“Ebola”を中心として、いくつかの重要表現を確認しておきたい。

1.1. Avigan と ZMapp

Ebola がもたらす未曾有の事態に、ワクチンの開発も急がれる中、特に 2 つの未承認薬が特効薬として未承認ながら注目を集めている。

一つは日本の富士フイルム (Fujifilm Holdings Corp.) の傘下、富山化学工業 (Toyama Chemical Co.) の「新しい抗インフルエンザウイルス薬」(<https://www.toyama-chemical.co.jp/news/detail/140324.html>) の Avigan (アビガン)¹⁾ であり、フランス人女性に投与されたことで注目を集めた。The Washington Post が以下のように報じている (以下、引用文中のイタリックは筆者によるものである)。

- (3) Fujifilm Corp. said its influenza medicine *Avigan* is being given to an Ebola patient at a French hospital along with another experimental drug, the latest treatments to be deployed in a global push to curtail the deadly virus.

(<http://washpost.bloomberg.com/Story?docId=1376-NCI5CP6JTSEB01-6A5OH7H008L9N7E712JBAQ52MC>)

同じく、エボラウイルスに感染した複数の患者に投与され、一定の効果があつたとしてメディアを騒がせたのは、バイオテクノロジー企業の Biopharmaceutical Inc. 製の ZMapp であり、アビガン同様、未承認の治療薬である。こちらも様々な場面で頻繁に取り上げられているが、CNN の報道の一部を以下に引いておく。

- (4) Dr. Senga Omeonga and physician assistant Kynda Kobbah were discharged from a Liberian treatment center on Saturday after recovering from the virus, according to the World Health Organization.

They were given *ZMapp* -- the experimental drug that's credited with saving the lives of two Americans infected with Ebola.

(<http://edition.cnn.com/2014/08/30/world/africa/ebola-west-africa/>)

上記の通り、未だ未承認の薬品であるため、治験から実用化へ道筋が不透明だが、Avigan と ZMapp は、今後その効果次第では、一般的な名称として、英語の語彙の重要な一部ともなる可能性がある。是非記憶し、今後も追跡しておきたい医療に関わる固有名詞（商品名）であることは間違いない。

1.2. Ebola の動詞用法について

Avigan と ZMapp のような医療の領域で新しく、そして非常に重要な商品名を生むこととなった Ebola の感染拡大であるが、以下で見えていくように Ebola というこの病名そのものが品詞転換した用例がいくつか確認できる。Ebola のように、単語そのものに一般化した動詞用法は存在しない場合でも、臨時語 (nonce word) として品詞転換を遂げ、様々な文脈で、一貫した意味を持って使用されている。

まずは、以下の (5) を確認する。NBC のカメラマンが、リベリアでの取材後、Ebola に感染したというニュースを議論していた掲示板には、(5) のような発言があった。文脈から判断して、おそらくは皮肉や冗談であろうが、アメリカがエボラウイルスを作成して人々を「エボラに感染させた」という意味で動詞として使用している。また、大文字の消失 (majuscule loss) が起こっており、語頭の大文字が小文字化している。

(5) We ebola-ed some folks...

(<http://www.zerohedge.com/news/2014-10-03/nbc-cameraman-covering-ebola-outbreak-liberia-tests-positive-virus>)

また、以下でも同じように、特定の人物を「エボラに感染さる」という陰謀論的な発言の中で、動詞用法が見られる。筆者は (5) と同様に、“ebola” と語頭を小文字で綴り、さらには、単語をダブルクォテーションで囲っており、その上で屈折形態素の“-ed” を付加するという珍しい形を用いている。表現の強調と、臨時転換であることを意識していることが伺え興味深い。

(6) A government that has control over diseases strains, the way they do over FCC spectrum, and it currently sees the US as a military “Theatre” where any libertarian, antiwar, or God forbid- tea party hack, is able to find themselves listed on Obama’s Tuesday morning Kill list to be drone struck, is just as likely to be “ebola”ed to death.

(<http://themonicaperezshow.com/podcasts-2/>)

さらに、公用語が英語であるジャマイカの新聞は、(7) のような見出しが付けられた記事が掲載されており、アフリカで Ebola に多くの人々が感染したこと、またその地域での暴動や、人々を隔離する政策について報じている。感染が同地域で広がっている現状を、Ebola を過去分詞として用いることで、その惨状を含めた現状を「エボラに感染した」と、簡潔に表すタイトルとな

っている。

- (7) ‘EVOLA-ED’ (http://www.jamaicaobserver.com/news/-EBOLA-ED-_17412361)

以上の用例の中では、(7)を除いては、全て個人方言 (idiolect) と解釈できる個人レベルの発言、発信であり、公のメディアで用いられたものはほとんどなかった。これは、臨時語として Ebola を動詞として用いることで「ユーモア、皮肉、風刺、ウィット等の意味合い」(安井 1996) が生まれ、表現にインパクトは増すが、一方で、このような格式張らない用法は、やはり社会言語学的には Non-U (Ross 1973) としてのラベルが貼られてしまうと、現在の危機的な状況を鑑みれば、格式的な表現が好まれるメディアではほとんど使用されないであろう。

ただし、注意したいのは、以上のような表現が品詞転換として完全に新しいものかと言えば、実は、そうではないということである。Ebola という単語そのものは長年使用されているものであるから想像に難くないが、すでに *The Online Slang Dictionary* には、(8) のような例文が、“sick” と同じ意味をもつ「形容詞」として、一般的ではないにしろ定義されているのが見つかる。これも上述の分析と同様に、もともとは、「エボラに感染させる」という他動詞の過去分詞が形容詞的に使用されるようになったと考えられ、さらに一般化した “sick” という意味が与えられたと考えられる。

- (8) Man, I can't go to the party. I'm Ebola-ed. (s.v. **Ebola-ed**)

Last edited on Jan 13 1998. Submitted by Emily M. from UC Berkeley, Berkeley, CA, USA on Jan 13 1998. (<http://onlineslangdictionary.com/meaning-definition-of/ebola-ed>)

この (8) の例文と定義が与えられたのが 1998 年であり、臨時転換という、辞書には現れない形式ではあるが、すでに Ebola は過去、品詞を変えて用いられていたことがあると分かる。²⁾

以上、今回主に取り上げた Ebola の動詞用法は、他動詞として、一貫して「エボラに感染させる」という意味を持っていた。これは、英語の品詞転換のメカニズムのみならず、社会的問題としての背景があるからこそ実現したものである。すなわち、言語文化的に共通の知識 (shared knowledge) を持つ者の間では、Ebola は動詞として、同一の意味で解釈されることが可能なのである。

2. be X-ed out の広がり再考

竹中 (2010, 2012) では、アメリカ英語を中心に、be X-ed out という構文の持つ意味について考察した。X は任意の名詞が品詞転換して動詞として用いられており、「X することに疲れた、嫌気がさしている」などの意味を表す。

以下では、追跡調査として、2014 年 9 月に、iPhone 6 ならびに iPhone 6 Plus が発売され注目を集めている iPhone という商品名に関する用例を追加し、今後の議論の品詞転換や商品

名の議論の足掛かりとしたい。

2.1. iPhoned out

新製品が発売されるごとに話題の的となる iPhone であるが、中には食傷気味の意見も聞かれる。このような感情を表現する上で、上記 *be X-ed out* の構文はうってつけであり、実際に多くの用例が発見できる。

Apple 製品の紹介をしている記事の中で、(9a) のタイトルが用いられ、記事の内容でも、筆者は (9b) のような前置きをして書き始めている。いずれも、様々なところで取り上げられ、同じような議論が繰り返される iPhone に関して、「嫌気が差している」ことを強調している。

- (9) a. A review, if you're not "*iPhoned out*"
b. Okay, I'm just about all *iPhoned out*. I know many of you are sick of it.
(<http://www.maccast.com/2007/07/02/a-review-if-youre-not-iphoned-out/>)

以下は、*iPadFORUMS* という掲示板において、iPad と iPhone を弄りすぎて疲れ切ってしまったということを発言（投稿）したものである。

- (10) I am *iPadded & iPhoned OUT!!!*
(<http://www.ipadforums.net/threads/i-am-ipadded-iphoned-out.49514/>)

さらに、(11) は、*San Jose Mercury News* の記事であるが、ここでも、“iPhoned out” が用いられており、iPhone が至る所で見られる状況を皮肉っている。

- (11) **CREATE AND SHAKE:** We know that many of you are *iPhoned-out*. Us, too. We used our cell-phone-free hands to surf the car radio Friday morning and all we found were tech reporters calling into the stations on iPhones, live from some scene of iPhone-buying mania.
(http://www.mercurynews.com/ci_9860875)

同様の例は、いくらでも見つかる。以下の (12) - (14) も、すべて iPhone を至る所で目にするのと、それに関連した記事を目にしたたり、自ら書いたりしていることに「嫌気が差している」という意味で使用されている。

- (12) Im *iPhone'd out*, I enjoy my evo much more.
(<http://www.imore.com/apple-sold-iphone-4-orders-pushed-july-2>)

- (13) With a few minutes until El Jobsos takes the stage, it's all gone a bit quiet out there on

the web - perhaps they're all *iPhoned out*, given the insane amount of coverage recently. (<http://www.theguardian.com/technology/blog/2008/jun/09/week>)

- (14) I guess I should warn you that any time I get a device that's going to become integral to my day to day life, I tend to write about it. I did this with my last phone, and my original iPod Touch, which has been my go to mobile device when I'm traveling abroad.

So, if you're all *iPhoned out*? Well then move along and we'll get back to our regular posts Thursday!

If you've been around here for awhile, you may remember my first venture into smart phone territory a couple years back when I picked up an Android based HTC Evo.

(<http://www.seanogle.com/product-reviews/iphone-5-review>)

2.2. 構文再考

以上、(固有)名詞を臨時語として品詞転換させて用いることのできる非常に生産性の高い *be X-ed out* 構文について、iPhone を例に、さらに用例を見てきた。iPhone という商品名が目にも余るほど日常の様々な場面で見られ、そのような社会的なコンテキストと、この構文の存在が、iPhone の品詞転換を可能としている。

今回の調査では、この構文が生み出す臨時語の意味や言語的特徴については、竹中 (2010, 2012) で詳しく分析したものと同様のものではあった。³⁾

また、綴字法という観点から見ると、臨時語の接尾辞の付加に関して (15) の3通りが見つかった。(15a, b) のような形式は前回の調査でも見られたが、iPhone の語尾は“e”であるにも関わらず、(15c) のように、あえてハイフンを用いて屈折接尾辞“-ed”を付加する形式が存在している。

- (15) a. iPhoned
b. iPhone'd out
c. iPhone-ed

本来、固有名詞である商品名をあえて動詞として用いているという筆者の意識の現れと解釈できるが、この点については、この他にどのようなバリエーションが許容されるのかなど、さらなる調査を要する。品詞転換による新しい表現の派生と接辞付加の間にどのような言語的規則と特徴が存在するのか、今後さらに用例を収集することで分析を試みたい。

3. おわりに

本稿では、新たな英語商品名として、Avigan と ZMapp をまず取り上げた。エボラ出血熱が流行した結果として脚光を浴びる形となった未承認薬であるが、今後も追跡していく価値のある固有名詞である。さらに、Ebola という病名自体が動詞化している用例を示し、品詞転換という言語現象とその背景文化とのつながりを論じた。

最後に、「X することに疲れた、嫌気がさしている」という意味を持つ be X-ed out という構文を再度検討し、近年流行している iPhone という商品名が、この構文の中でのみ品詞転換して用いられている例を示した。臨時語としての様々な名詞の品詞転換を可能にする構文の持つ生産性と、商品名自体の持つ社会的価値が一体となる形で言語変化が起こっていることを改めて示すと共に、品詞転換と綴字法のバリエーションなど、今後の研究への課題を提示した。

さらなる考察を要する、言語と文化が一体となった英語表現は後を絶たない。今後もそのような表現の収集と分析を継続していきたい。

【注】

- 1) 一般名は、ファビピラビル (Favipiravir)。
- 2) エボラウイルス病 (EVD) の流行の歴史については、国立感染症研究所の以下の記述が参考になる。

西アフリカ地域においては、EVD が確認されたのは 1994 年コートジボアールで EVD 患者 1 名が確認されて以来のことで、EVD の流行が拡大したのは初めてのことである。

(<http://www.nih.gov/niid/ja/id/1094-disease-based/a/viral-hemorrhagic-fever/ebora/idsc/4905-ebola-ra140808.html>)

1994 年に最初に確認され、*The Online Slang Dictionary* には、前述のとおり、1998 年に登場したということである。

- 3) 構文の特徴として、以下のような言語的な特があることをまとめた：
 - (a) 主語には通例 <人> がくる。
 - (b) be 動詞以外に get をとることもある。
 - (c) be は、現在形を取ることが多い。
 - (d) “be X-ed” は、基本的には状態を表し、過去分詞は形容詞的解釈を受ける。
 - (e) 商品名から派生した“be X-ed”によって、繰り返し行われる活動が表されるが、文化的背景が読み込まれると、それ以外の意味を表すことができる。
 - (f) 過去分詞は、しばしば副詞の all の修飾を受ける。この all は「すっかり、完全に」の意を表し、一時的な状態を表す語を修飾する機能を果たす。
 - (g) by 句は通例省略されるが、原因が強調される場合には添えられることがある。

参 考 文 献

[辞書・論文・研究書]

- Ross, A. S. C. (1956), "U and non-U." In N. Mitford (ed.). *Noblesse Oblige*. London: Hamish Hamilton. pp. 11 - 36.
- Takenaka, Yuki (2012), *An Analysis of Brand Name Nouns in Contemporary American English: Their "Genericization" Processes and Sociocultural Factors*. Unpublished Doctoral Thesis, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University.
- 竹中裕貴 (2010), 「"be X-ed out" の生産性の考察-アメリカ口語における固有名詞の動詞化の一側面-」『英語の言語と文化研究』第 15 号, pp. 33 - 43.
- 安井稔 (1996), 『コンサイス英文法辞典』第 1 版, 三省堂.

[インターネット資料]

- BBC* <http://www.bbc.com/news/world-africa-28971710>
- Centers for Disease Control and Prevention* <http://wwwnc.cdc.gov/travel/notices/warning/ebola-guinea>
- CNN* <http://edition.cnn.com/2014/08/30/world/africa/ebola-west-africa/>
- iMore* <http://www.imore.com/apple-sold-iphone-4-orders-pushed-july-2>
- iPadFORUMS* <http://www.ipadforums.net/threads/i-am-ipadded-iphoned-out.49514/>
- Jamaica Observer* http://www.jamaicaobserver.com/news/-EBOLA-ED-_17412361
- Location 180* <http://www.seanogle.com/product-reviews/iphone-5-review>
- Maccast* <http://www.maccast.com/2007/07/02/a-review-if-youre-not-iphoned-out/>
- San Jose Mercury News* http://www.mercurynews.com/ci_9860875
- The Guardian* <http://www.theguardian.com/technology/blog/2008/jun/09/week>
- The Monica Perez Show* <http://themonicaperezshow.com/podcasts-2/>
- The Online Slang Dictionary* <http://onlineslangdictionary.com/meaning-definition-of/ebola-ed>
- The Washington Post* <http://washpost.bloomberg.com/Story?docId=1376-NCI5CP6JTSEB01-6A5OH7H0O8L9N7E712JBAQ52MC>
- Zero Hedge* <http://www.zerohedge.com/news/2014-10-03/nbc-cameraman-covering-ebola-outbreak-liberia-tests-positive-virus>

国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1094-disease-based/a/viral-hemorrhagic-fever/ebora/idsc/4905-ebola-ra140808.html>

(たけなか ゆうき・島根大学外国語教育センター准教授)

